

平成 26 年度 第 4 回
袋井市行政改革推進委員会 会議録

日 時：平成 26 年 11 月 18 日（火） 18：30 ～ 20：30

会 場：袋井市役所 5 階 第 1 委員会室

出席者：日詰一幸会長、大場規之副会長、玉井まゆみ委員、寺田陽子委員、
中山勝委員、西尾新太郎委員

<会議次第>

○ 報告事項

- (1) 行政改革推進委員会の審議内容について
- (2) 行政改革推進委員会における意見の整理について
- (3) 第 3 回袋井市行政改革推進委員会会議録について

○ 議 題

- (1) 第 2 次行政改革大綱の策定について
ア 第 2 次行政改革大綱（案）について

○ 資料提供

- (1) 平成 23 年度 しずおかけんの地域経済計算
- (2) 行政改革「人材育成・組織力向上」に関するアンケート調査中間報告書（速報）

<会議の概要>

社会潮流やこれまでの委員会結果などをもとに、第 2 次行政改革大綱（案）が提示され、平成 37 年度に目指すべき行政経営の将来像となる「基本理念」、行政改革の基本的な方向性の「基本方針」及び重点的に取り組む行政改革のテーマとなる「実施方針」の案について議論が行われた。

（委員意見）

- ・「未来志向」や「大胆な改革」から未来を見据え、前へ進んでいこうという積極的な姿勢が読み取れる。
- ・「大胆な改革」という改革をすることが目的・目標でもいいのではないか。
- ・総合計画が P と D であれば、行革は C、A である。基本方針の 3 は、コストと成果を確認、確保できているのという表現にした方が、棲み分けや目指す方向性が明確になる。
- ・組織改革は庁内の組織だけにこだわらず、全市の組織においても取り組んでいただきたい。
- ・袋井を戦略的に売り出すことをしなければ全国に知れ渡ってこない。
- ・国の制度、仕組みでカバーできない部分を自治体として切り抜けていくような、知恵、知識を備えていくことが、これからの自治体のあり方である。
- ・我々がしなければいけないことが、改革だとするならば、他と比較しなければいけない。
- ・今回の行革の視点は、内にこもらないで、とにかく外に出ていくことである

<p>会長</p>	<p>2 会長あいさつ</p> <p>今回は、前回の意見を盛り込んだの素案になっている。中身について集中的に検討していく。</p> <p>先週から、衆議院の解散風が強くなってきている。地方創生法案がうまく通ればと思っているが、ばらまきにならないようにという話もある。景気が十分に回復していない。特に地方部で景気が回復していない状況にあるため、行財政の改革を粛々と推し進めていくということは待ったなしである。私たちは、袋井市のこれから 10 年の行政改革の方向性を皆さんと一緒に検討し、今後のあり方について意見を出し合えればと思っている。</p>
<p>理事</p>	<p>3 理事あいさつ</p> <p>社会潮流の分析をし、現状の課題も洗い出し、行革の大綱と並行して総合計画も基本構想、基本計画を作っている。事務局が計画を作るとどうしても総花的になってしまう。袋井の特徴を出し、市民にわかりやすく表現したい。</p> <p>本日も貴重な意見をいただき、反映することで、袋井らしい計画ができればと思っている。総合計画のキャッチフレーズは「活力と創造で 未来を先取る 日本一健康文化都市」ということで議論している。</p>
<p>会長</p>	<p>4 報告事項</p> <p>(1) 行政改革推進委員会の審議内容について</p> <p>(2) 行政改革推進委員会における意見の整理について</p> <p>(3) 第 3 回袋井市行政改革推進委員会議録について</p>
<p>会長</p>	<p>報告事項に対し質問等はあるか。</p> <p>[質問なし]</p>
<p>会長</p>	<p>議事録は11/25（火）までに確認してもらい、訂正箇所がある場合はメール、電話にて事務局へ連絡していただきたい。事務局ではそれを受け、ホームページへの公開の作業を進めていく。</p>

	<p>5 議題</p> <p>(1) 第2次行政改革大綱の策定について</p> <p>ア 第2次行政改革大綱（案）について</p> <p>※（当日配布資料1） 第2回袋井市行政改革推進本部 第2次行政改革大綱に対する指摘事項</p> <p>※（当日配布資料2） 第2回袋井市行政改革推進本部の開催結果</p> <p>【基本理念について】</p>
会長	<p>基本理念のキャッチコピーを中心に何かお気づきの点や意見はあるか。</p>
副会長	<p>袋井市行政改革推進本部の構成をもう一度、確認させてもらいたい。</p>
事務局	<p>本部長は市長、部長級職員が本部員となり構成している。</p>
副会長	<p>基本理念については、当日資料の通りだと思う。基本理念の「未来志向の経営感覚のもと 大胆な改革の達成を目指します」は、お題目としては非常にすばらしいと思うが、これをどのように実現していくかということが大事になってくる。言葉としては良いという、第一印象を受けた。</p>
委員	<p>当日、配布資料の一番上に「大胆な改革が何を示すのか、どういう方向性だというイメージが浮かんでこない。」と記載されている。「大胆な改革」の目指すイメージが沸いてこないと思う。最初に、どんな社会を目指し、未来志向の経営感覚のもと大胆な改革を行います、と言えばイメージが浮かんでくると思う。例えば、「安心安全な社会を目指し、未来志向の経営指向の経営感覚のもと大胆な改革を行います。」とした方がイメージさせるにはいい。理念だとそこまで具体的にしては、まずいという議論もあると思うが。</p>
事務局	<p>寺田委員から言われた内容は、本部会からも指摘を受けた。わかりやすく、何を狙っているのかを描くことで、大胆な計画が生きてくる。協働で大胆な改革を目指すなど、目標というよりも手法的</p>

	<p>な文言をいれた方が、市民に対して、わかりやすいとの意見があったと認識している。</p>
会長	<p>このメッセージから読み取れることは、最初の「未来志向」や「大胆」は、分かりづらいということであるが、とにかく前へ進む、未来を見据え、前へ進んでいこうという意味では、非常に積極的な姿勢が読み取れる。それを、より明確にするならば「安心安全な社会」などの文言を加えてもいいと思う。この文言だけでも、とにかく待ったなしの行政改革を未来志向で進めていくぞというメッセージは伝わってくる。</p>
委員	<p>未来志向で一生懸命やっていくことはよくわかった。最後の目指しますと言っているところが気になる。目指すでいいのか、やるのか、決意表明なのかが問われると思う。未来志向でやっていくんだということを前面に出すのであれば、目指すというよりも、もっと強い言葉で記述した方がいいと思う。</p>
会長	<p>やり遂げるという強い意志表示もあってもいい。</p>
委員	<p>大胆な改革を行います、はどうか。</p>
会長	<p>そのような積極性のある言葉にしてもいい。</p>
事務局	<p>本部会議でも意見をいただいております、大胆な改革をどういう風にしていくとした方が市民に分かりやすく、イメージが頭に浮かぶと思う。皆さんからも、そのような意見をいただいているため、その方向性で手を入れて行きたい。</p>
会長	<p>細かい文言については事務局へお願いしたい。 方向性は、私たちの方で意見を出させてもらえればと思う。</p>
副会長	<p>何を指すのか理想像を掲げていくというのもいいのかもしれないけれど、私たちは行政改革を担っているため、この「大胆な改革」という改革をすることが目的・目標でもいいのではないかと。これだけでも行財政改革を進めるというメッセージは伝わると思う。</p>

	<p>それも、目指すだけではなく、実現し、改革を推し進めるということである。</p>
委員	<p>行政はどうしても前例主義となるが、基本理念の本文中の「前例にとらわれず」という言葉が非常にいい。それが大胆な改革につながってくれば嬉しい。</p>
会長	<p>前例踏襲主義というのが、行政のネガティブな部分になるが前例にとらわれなくて、とにかく前向きに進めて、新しいこともやってみるという積極性があった方がよい。「大胆な」という言葉の中にそれも含まれる。本部会議でのコメントよりも、我々の方は、この基本理念を積極的に捉えているということになる。</p>
委員	<p>【基本方針について】</p> <p>自治会長を承っている。諸井地区は多くの世帯数があり、様々な市民の声が聞かれる。秋祭りの屋台を1台いただけることになり、屋台に関して班を通して賛否を聞き、自治会において運営することとなった。今まで、自治会が積極的な形をとっておらず、地域での慣習でやってきたことが大きい。</p> <p>実際、自治会運営を大変な思いでやっている。市との関わりの改善など、行政とうまくコミュニケーションができないかということに関心を持っている。市として、どのような方向性や考えているのかお聞きしたい。</p>
事務局	<p>班長、自治会長は、回り順でやられる自治会がほとんどである。昔は一線を退いた方がやっていたが、最近仕事を抱えている方が就任し、地域をまとめる活動量が膨らみ、課題となっている。</p> <p>行政も職員の数が年々減ってきている。それに対し、国や県からの仕事は権限移譲により膨らんできている。行政運営は、地域の方にも協力していただかなければ、市民サービスの維持は難しくなってきたっており、地域と行政、お互い共通した課題を持っている現状がある。双方向での意見、情報交換として、協働のまちづくりのパートナーシップがある。実際に地域出身の職員を連合会単位で原則3名の職員を置いて、自治会長などと常に情報交換ができる窓口を用意している。</p>

	<p>始まったばかりで軌道にのっていないため、自治会の隅々まで行き渡っていないが、組織の充実化、皆様への周知も図り、自治会や行政の課題解決に住民の力、行政の力を結集して取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>今、市でもホームページのリニューアルを進めている。ホームページのSNSにおいて、双方向の情報交換ができるようにシステムを構築している。人を介しての取り組みと媒体系との両面で進め、様々なニーズに対応できるようにしたいと思う。</p>
委員	<p>地域の中で経験を積み、自治会活動や組織にも属していない、能力を持たれている方が自治会に多くいるため、地域のためにまとめ、表へ出てもらえればという思いがある。</p> <p>祭で大老という組織を作ろうと、70歳ぐらいの年代の方に集まっていたいただき、活躍してもらった。地域での実績は少なく、地域差を感じている。行政において、リタイアした世代を活用するような指導はしているのか。</p>
事務局	<p>現在、市でもリタイアした方から、専門性を生かし、つなぎ役としてNPOを立ち上げ、社会貢献活動をしたいという相談も受けている。そのような活動を積極的に支援し、活発に活動してもらいたいという姿勢である。</p>
会長	<p>「市民につくし、市民からつくされる行政経営」ということで、自治会活動は重要な活動であると思う。パートナーシップの考え方として、双方でいい関係づくり、お互いの役割を果たしていくことで、地域をより豊かなものにしていくという考え方である。</p>
委員	<p>「市民につくし、市民からつくされる」という文章ですが、「市民からつくされる」の部分で「市民から積極的に参加する」という言葉に変えた方がいいと思う。</p>
事務局	<p>持ちつ持たれつの表現にしているが、市民参加と協働で市民満足度を高めようというのが本当の意味である。表現方法の課題もあるため、事務局で見直しをさせていただく。</p>

<p>会長</p>	<p>今までは、常に市民が頼る部分が大きかったが、自分からやっていくという積極性、自発性がないと、いつまでも行政に頼ってしまうことになってしまう。逆に、市民が動き出した時に、行政が市民の活動を支え、支援していけるのかという観点で考える新しいステージに入ってきていると思う。</p>
<p>副会長</p>	<p>行政改革の役をいただいたときから、行革とは何だろうと考えている。実は、今回、この資料4の右がますます総合計画に似てきたと思った。総合計画とどこが違うか、考えてみると、先程もP D C Aという話があったが、例えば、総合計画がP（プラン）とD（ドゥ）であれば、行革はC（チェック）、A（アクション）だろうと、これが感じたことである。もし、私の仮定を正しいとするのであれば、総合計画がP、Dであれば、我々はC、Aをしなければいけない。そうすると、基本方針の言葉も、そのような表現にすべきではないと思う。例えば、3番は、「コストと成果を重視した行政経営」ということですが、C、Aの表現をすると「コストと成果がきちんと確認、確保できているのか」というような、確認やチェックしているという言葉に置き換え、内容もそのような表現にしていって方が、棲み分けや目指す方向性が明確になるのではないかと思った。</p>
<p>会長</p>	<p>ご指摘の通りだと思う。総合計画とどのように棲み分けていくのか。P D C Aで考えてみれば、C、Aの部分や行政がどのように財政的な資源、人的資源を使って、よりよい行政を進めていくことなど、まさに経営に関してのことだと思う。それを評価することに軸足を置くことが重要であると思う。是非、その部分を入れていただければと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>基本方針の3つは問題ない。基本理念における大胆な改革を進めていく上での「コストと成果を重視した行政経営」の事務事業の見直し、スクラップアンドビルドの意味合いとして、全てをやるのではなく、袋井市が目指すことに対し、事業の重要度、緊急度の取捨選択をしていき、一生懸命、改革するという意志表示が入ってもいいと思う。P D C Aにおいては、Pの部分の計画において、前例なきことを改革していき、最終的にC Aで100%にしていくということになる。3の部分に入ってくると思う。</p>

<p>会長</p>	<p>計上されてはいるが、成果が上がってこない事業もある。中山委員がおっしゃったCAの部分で、辞めることは、A（アクション）に入ってくるのと思う。改善の中には、事業そのものをリニューアルしていくこともあれば、逆に、止めることも選択肢としてあり得る。そのため、果敢に取り組み、チャレンジしていくことがあっていいと思う。行政の仕事は、前例踏襲ということで一度、箇所づけや引用化されてしまうとそのままで行ってしまう。どこかで止められるような仕組みがないといけないと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>市の事業を見直し、新しくしていかないと新鮮な予算にはならない。スクラップアンドビルドの掛け声はしているが、予算要求の状況では見直しているものが少ない。予算要求時に、600ぐらい事業をわけ、そのうち、国の政策とは関係なく、市の裁量で方向付けられるものが150ぐらいあり、これに必ずメスを入れてくれということで今年、予算要求をスタートした。見直ししたり、統廃合したり、例年より多く、検討はしたが、経費的には逆に増えてしまっている。</p> <p>古い事業をどうするか判断は難しい。8万7千人ぐらいの自治体であると、行政職員と市民の顔が見えていて、既存事業が削りにくい。そこは、財政課を悪者にしてもいいからということで対応している。</p>
<p>副会長</p>	<p>市の組織を見直すことが、スクラップの第一歩でないかと思う。例えば、〇〇協会、〇〇会の予算は、存続していると顔が見えていただけに切りにくいと思う。しかし、組織を真っ白にして作り直せば、尾を引かない。本当に改革したい、変えたいなら、今まで四角く切ってあった器を、三角に切り直してみるなどしないと掛け声で終わってしまうと思う。組織改革を掲げているため、庁内の組織だけにこだわらず、全市の組織に対しても、是非、取り組んでいただきたいと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>補助金の見直しは、長年付き合いしてきた団体の補助金が削減できないということで引きずってしまう。どこかでけじめをつけて新しいものに変えていかないといけない。踏み出す勇気がないと厳しい。</p>

事務局	<p>補助金は、3年に1回見直しを行っており、特定団体の補助金を現状のままとすると、市全体が贅肉体質になってしまう。補助金を削減するにあたっては、当事者同士の利害関係だけでなく、市の経営や全体的な話もしながら、予算を子育て施策に投資するなど、市全体の最適化を図るという説明している</p> <p>【実施方針について】</p> <p>【1 市民につくし、市民からつくされる行政経営(1)～(4)】</p>
会長	<p>基本方針は、了解いただけるとして、実施方針は15の項目があるため、議論に入りたい。4ページ、5ページで何かお気づきの点があったらお願いしたい。</p>
委員	<p>2点あり、1点目は「(2)官民連携・民間活力の活用」について教えていただきたい。スリム化を図るために民間の力を使うということだが、民間委託、指定管理者制度を今後、袋井市において、実施していく余地があるのかということをお聞きしたい。</p> <p>2点目は「(4)地域資源の発掘の有効活用」、シティープロモーションを含めた話で、袋井ブランドというものを総花的なものにするのか、袋井を売り込むためには一点突破主義のするのかどちらかであると思う。一言で、袋井はどういうところなのかということがわかるようなものを戦略的に売り出すことをしなければイメージアップ、袋井という名が全国に知れ渡ってこないと思う。マスコット、キャラクターが「ふくろう」という話になれば、ふくろうは「知恵の神様」という意味合いがあるため、袋井市の市民は日本一賢い、スマートというような売り出し方をしていった方がいいと思っている。総花的でなく、1つに絞る方がいい。</p>
会長	<p>まずは、「(2)の民間委託、民間活力の活用」をお願いしたい。</p>
事務局	<p>民間委託は、袋井市でも随分進めてきた。窓口サービスについて、正規の職員、嘱託、臨時職員で対応している部署がある。全ての窓口を民間委託するかは検討、検証していかなければいけない。民間に委託すれば、継続性が生まれたため、専門性、継続性を含めて、窓口サービスの民間委託する余地は、残っていると思う。</p> <p>P F I の手法については、袋井は遅れている。1件の実績もない。</p>

	<p>限られた財源の中で、ハード施設を市民ニーズに対応するため、民間の資本も生かしながら整備をしていくということも必要であると思う。また、維持管理だけでもPFIの手法において、取り組むことを今後、検討しなければいけない。そのようなため、(2)に入れている。</p> <p>情報発信力においてだが、袋井市には歴史資源的があり、観光客が年間数十万訪れるが、知名度がないのが現実である。</p> <p>総合計画で指摘されたことだが、袋井市は内向きという意見があった。外に向けて発信するべきである。例えば、観光地には外国語の表記があるべきであり、ホームページもブラジル、スペイン語、英語、中国語など、多国語の表記があれば、当然、外国の観光客や観光系の会社の目に止まってくる、という指摘を受けた。それを仕組みとしてすることも大事である。</p>
委員	<p>民間活力の部分だが、本部会の結果で報告いただいた中に、教育の部分に職員数が多いという説明があった。幼稚園、保育園のことではなく、本庁にいる教育部門の方が多いいという意味合いですか。</p>
事務局	<p>教育部門の職員が多いというのは幼稚園教諭である。袋井の構造は、小学校が12、公立の幼稚園が15、公民館が13で、1つの公民館区域に小学校、公立の幼稚園があるため、コミュニティーが充実している。</p> <p>これからのトレンドにおいて、子育て施策は0～2歳の保育をどうしていくかということが重要である。保育所は公立が2、民間が10の構成である。0～2歳のところは民間に頼っており、3～5歳は公立である。幼保をどうしていこうかという議論を子ども子育て制度の中で議論している。方向としては、法的な制約があるが、地域の中で0～5歳をまとめて面倒をみるような形にしていくことがいいという感がある。今後の議論の中でご意見をいただければと思う。</p>
委員	<p>幼稚園の昼食は給食か。保育所の給食は民間でいいか。給食を民間に委託をしていけば、コスト的に安価になる。親御さんとしては、公立の方が安心安全だということがあるため、急に進めるのは難しいかもしれないが、メスを入れていくことも必要である。</p>

事務局	<p>子どもたちの給食の関係だが、整理をし、幼稚園、小学校、中学校の全てを給食センターで調理し、配送するセンター方式でやっている。それまでは、自校方式や幼稚園では給食がないなど、ばらばらであったが今は統一された。市立保育所は、民間の業者に保育所内で調理を委託し、運営をしている。保育園の所管が厚生労働省で、幼稚園が文部科学省で制約があるが、地域の実情にあった形でやらせてもらえればという思いが強くなる。</p>
会長	<p>先程、大場委員からC、Aの部分の話もあり、プラスDの部分での仕事の仕方も、行政改革の1つのポイントになると思う。幼保一元化ということで、認定こども園ができていくわけだが、所管省庁がいろいろある。</p> <p>地域のニーズを見た時に、様々な縛りの中で対応できない部分が出てくる。対応できない部分をどうやって突破していくかは、自治体職員の英知にかかっていると思う。国の制度、仕組みでカバーできない部分を自治体として切り抜けていく知恵、知識を備えることが、これからの自治体のあり方であると思う。そのため、国に先んじて、できるものはどんどんやっていき、国の制度の仕組みの中で対応できないものがあつたら、必ず新しい対案を出していけるような積極性があつたらいい。</p> <p>子ども関連施策は、今まで手が入らなかったところであるため、仕組みとして地域で作っていくことができたらいと思う。</p> <p>〔2 自主性・自立性の高い行政経営 (1)～(5)〕</p>
会長	<p>「2 自主性・自立性の高い行政経営」の6ページ、7ページご意見はどうか。</p>
副会長	<p>市が計画を策定や取り組みをする時、市の中に入り込みがちで、閉鎖的な目で見ているような気がする。我々がしなければいけないことが、改革だとするならば、他と比較しなければいけない。他と比較して「どうであるか。」ということをしちんと言ひ、比較した結果を検証し、確認をしないと行けない。</p> <p>「自主性、自立性を確保するための比較をするという作業」を2番か3番に入れなければいけない。それをどういう形で盛り込んでいくか考えたほうがいいと思う。</p>

	<p>例えば、袋井国際交流協会で役員をやらせていただいているが、磐田、掛川または県の国際交流、他の都道府県の国際交流を見ると、袋井市が非常に遅れているということがわかる。袋井は国際交流の谷間だと。何が谷間かという、例えばブラジル語の表記が少ないであるとか、多文化共生という意味で、今ここに住んでいる外国人が磐田、掛川と比較して十分な情報が与えられていない。また、よりよい生活をするための対応、対策がとられていないことで、非常に遅れていると言われた。実際、磐田、掛川、他都道府県と比較することで、やらなければいけないことがたくさんあるとわかる。我々の立場、行革担当者、担当部署は、常に比較する目をもたなければいけない。それを方針の中に入れていくべきだと思う。</p> <p>袋井市で解決できないことは連携していく。広域連携に結びつけられるものや広域連携で解決するものがないかという視点も考えていくべきだと思う。それも2か3に入れられたらいいと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>他の自治体との比較の視点は重要である。今回の行革の視点としては、内にこもらないで、とにかく外にでていくことであるので、「大胆な」という言葉の中に、他の自治体との比較、それを知った上で改革できるところは改革し、さらに凌駕していく積極性が必要だと思う。2番目に入れてもいい。</p> <p>広域連携で、コスト面から、同じ様な種類の施設を持っていると、それぞれが老朽化してくる。アセットマネジメントとも関わってくるが、役割分担しながら、相互の市で利用しあえばいい。広域連携は非常に重要であると思う。大場委員からご指摘があったように、国際交流協会も連携すればもっと違う形になっていく。項目に入れられないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>大場委員から言われた内容は、私、個人的には、2番目の「自主性、自立性の高い行政経営」であると思う。袋井市の持続的な発展を意識し、自立性、自主性という言葉で表現をしている。</p> <p>3番は効率性やコストパフォーマンスという部分で表記しており、いただいた内容はそちらの話だと思う。おっしゃるとおり、袋井市の弱みを強みに変えていかなければいけない。強いところは伸ばし、それには、しっかりした分析が必要である。他との比較も、本来は、当たり前やらなければいけない。</p>

	<p>広域連携についても、わかっているが相手があることで、なかなか思い切った改革ができないでいる。共通して思ったのは、戦略的に進め、長い視点にたち、一步一步前へ伸ばしていくような表現で、1項目を入れていきたいと思った。</p>
<p>会長</p>	<p>アセットマネジメントでは、委員のご指摘された点がすごく効いてくると思う。沼津で青少年の家があるが、60年代、70年代に作られ、40～50年が経ち、老朽化している。沼津の隣の長泉町には、立派な青少年の施設があり、沼津の子ども達は、みんなそちらに行ってしまう。それならば、沼津の青少年の家をつぶし、合同で使わせてもらってもいいと思う。これから、そのようなことが出てくると思うし、非常に重要な視点である。</p>
<p>副会長</p>	<p>課長のお話を伺いして、補足をさせてもらいたい。私が比較の部分と広域連携を、2・3どちらにいれようかと迷っていると言ったのは、広域連携は必ずコストと絡んでくる。そのため、コストや効率を考えたときに広域連携になるということは明確である。そのため、必ずしも2ばかりではないということも補足させていただきたいと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>[3 コストと成果を重視した行政経営 (1)～(6)]</p> <p>それでは、3番目「コストと成果を重視した行政経営」に移りたい。この文言は、もう少し検討していただくということに先程の議論でなった。これは8ページ～10ページ、1から6まで項目になるが何か意見があるか。</p>
<p>会長</p>	<p>広域連携では、大場委員はコストと広域の話は、常に密接に関わってくるとの話であった。3の文言の中に、広域行政の話がでてきますけれども、相互に絡んでくるので、もう一度検討していただければと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>P D C A サイクル、これは青年会議所等で活用していた言葉と記憶している。内容として、わかりやすい言葉を使った方がいいと思う。</p>

会長	<p>図で表記できる箇所があれば、わかりやすいのではとのご指摘である。</p>
委員	<p>「3 コストと成果を重視した行政経営」を見ると、2で出てきたアセットマネジメントは3に入れた方がいいと思う。</p>
会長	<p>アセットマネジメントの話が2か、3かというところがあると思うが、コメントはあるか。</p>
事務局	<p>棲み分けは、難しいところがある。両方にかかっているところもあるため、事務局に一任いただければ、直すところは直していきたい。アセットマネジメントは、3にも若干、影響あるが、我々が先程言った行政体として持続的に維持、発展していくにはやはりアセットマネジメント自体は避けて通れない。そういった意味で「自主性、自立性」を重視して、取り組んでいきたいということで分類をさせていただいている。</p>
会長	<p>今日、様々な角度からご意見をいただいている。もう一度、内容を検討していただき、次回が諮問ということであるため、今日の委員の皆様のご意見を盛り込んだ形で、大綱案を作っていただき、諮問を受けるという形を取ればと思う。皆さんに多くのご意見いただいているため、内容がいいものになってきている。これからの前向きな10年を望むときに、今までにない取り組みができる大綱になるのではと期待を持っている。</p>
副会長	<p>6 資料提供</p> <p>(1) 平成23年度 しずおかけんの地域経済計算</p> <p>市町村別のGDPに関しては、横の比較というよりも、袋井市の伸びを数値化し、目標とすることができると思う。例えば、企業であれば、来年度、売り上げや利益はいくらか、計画、見込み、達成率を常に確認し、軌道修正していくことになる。</p> <p>そうした視点で、この数値を使うことができる可能性があると思う。企業とは違うため、使い方や成果の出し方が変わってくると思うが、見方、利用の仕方を袋井市が先駆けてやっていくということも非常に価値があると思う。</p>

	<p>(2) 行政改革「人材育成・組織力向上」に関するアンケート調査中間報告書（速報）</p>
副会長	<p>いつごろ最終的な報告書ができるのか。</p>
事務局	<p>12月中には完成予定である。</p>
副会長	<p>以前もやったことがあるか。</p>
事務局	<p>今回が初めての取り組みである。</p>
副会長	<p>2点質問だが、最終ページの「事務事業の整理、合理化、見直し、職員の定員管理の適正化」が非常に多いことに正直驚いた。10年前になると思うが、提案活動が民間企業で流行った。市ではそのような取り組みをされたことはあるか。</p> <p>23ページ、「現在の仕事や職場に満足していますか。」では満足度は高いという説明をいただいたが、アンケートは総じて、プラス方向に振れがちといわれている。1～5点でつけると3.5位が平均と見なければいけない。</p> <p>例えば、企業のサービスについて満足していますか、というアンケートを取った時に、4以上でないとプラスと思っはいけないのが一般的な解釈かと思う。60%、65%の満足ではいいと言えない。普通、70～75%位に平均が行くが、64%で満足するかは微妙なラインであると思う。皆様はどう思われるか。1つ目は市に、2つ目は皆様のご意見も含めて伺いたい。</p>
事務局	<p>1点目の質問ですが、袋井市では、ワンステップアップ運動という業務改善を職員の取り組みとして行っている。実績提案と政策提案がある。実績提案は1年通して、職員がどんな改善をしたか実績報告してもらい、年に1回発表会をしている。選ばれた20組が発表し、市長、副市長も出席し、採点し、得点が高かった個人、複数人に対して表彰する制度を取り組んでいる。年度末に表彰式も行っている。そういうこともあり、職員が判断した結果が数字に表れていると思う。</p>
副会長	<p>193人が「事務事業の整理・合理化、見直し」をした方がいいと</p>

	<p>ということであると思うが。今の説明であると、成果が現れているということである。成果が現れていないような気がするが。</p>
事務局	<p>毎回、取り組んでいるものであり、その部分が必要だと職員が思っている、と受け止めた。成果が出ることで必要だという認識が高いと分析した。</p>
会長	<p>大場委員が指摘していただいている23ページで、満足度しているが14.5%、やや満足しているが49.8%、両方合わせて64.3%。この64.3%が本当に満足していると受け止めていいのかどう思うか。</p>
委員	<p>副会長のおっしゃるとおりで、もっと高くなっていかなくてはと思っている。これを目標として、80%や90%に上げていくにはどうしたらいいかということを含めながら、仕事のやり方や業務量を検討し、最終的に目標値を掲げ、満足度を上げていくことが必要と感じた。</p>
会長	<p>64.3%で満足をしてはいけない。高めを目指してほしい。再度、アンケート結果を確認していただき、次回、質問があるようであれば、出していただければと思う。今後の検討事項に係ってくるので是非、お目通しいただければと思う。</p>
委員	<p>最近、市の職員とお会いする機会が多い。名刺を要求したら持っていなかった。袋井市は経費節減のため、名刺を持たせていないと思ったぐらいだ。自分が仕事を背負って行くわけで関わりをもつ市民に対し、自分が誰であるかは、最初の部分で重要であると思う。</p>
事務局	<p>7 次回の会議日程について</p> <p>次回については、12月18日（木）、時間は午後6時30分から予定している。追ってご案内を差し上げる。次回は、予定変更がなければ諮問書をお渡しし、各論の検討に入りたいと思う。1月に予定している人材育成の個別テーマの検討の最初の部分を、議題の中に盛り込ませていただく予定である。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>